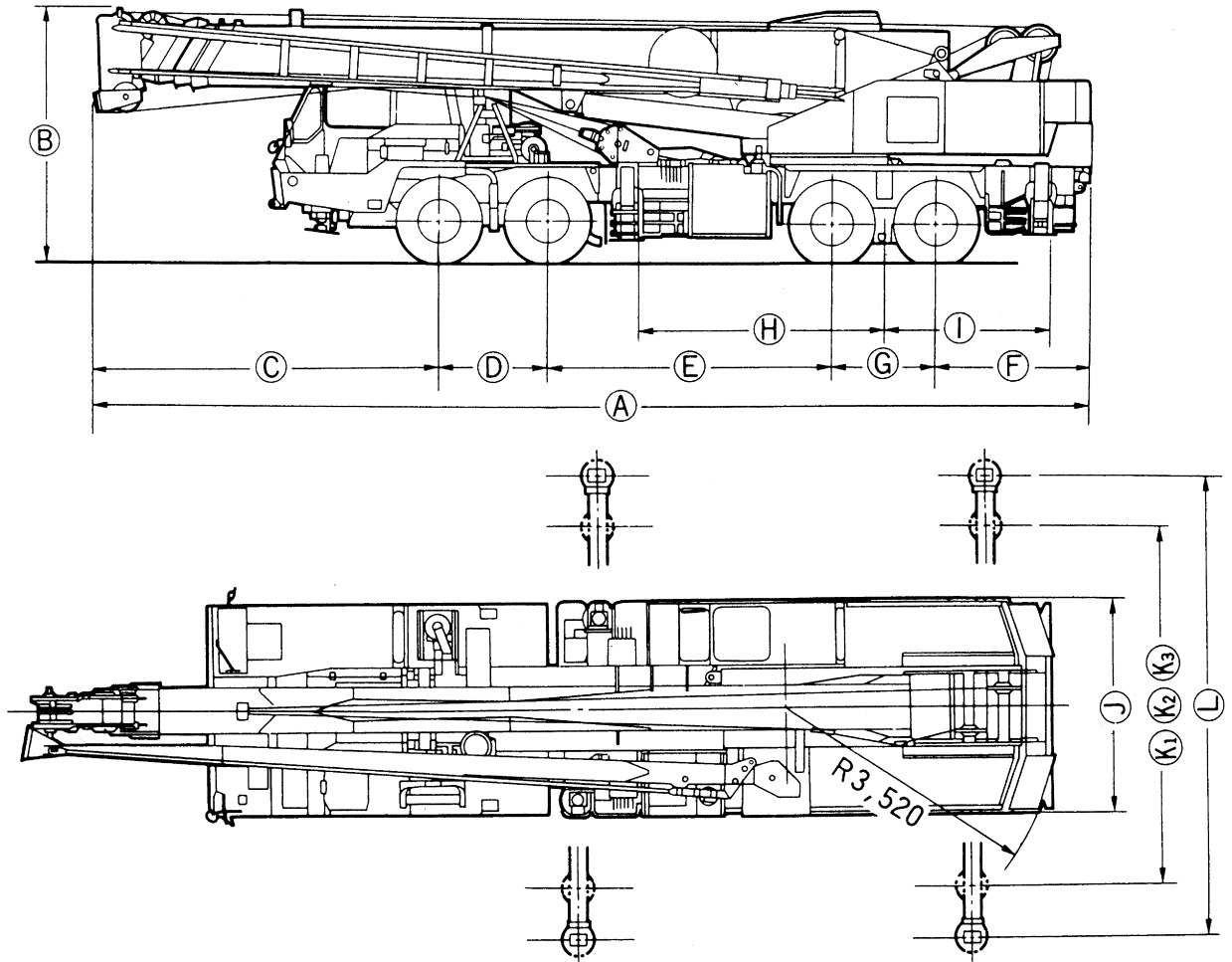


■全体図(単位mm)($\frac{1}{100}$)



キャリア型式	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K ₁	K ₂	K ₃	L
三菱KS-506S	13,250	3,500	4,580	1,450	3,850	2,020	1,350	3,320	2,200	2,820	4,000	5,050	6,200	7,500
日産W-KG520TN	13,250	3,500	4,605	1,470	3,780	1,995	1,400	3,250	2,200	2,820	4,000	5,050	6,200	7,500

(単位mm)

■注意

- 1) 定格総荷重は水平堅土上において、本機の保証できる最大荷重を示しており、フックその他のつり具等の重量を含んだ値です。なお、 部分は機械の強度によって定められた値です。

■フックの重量

フックの種類	50トン(45トンフック)	20トンフック	4トンフック
重量	500kg (サブアップ付) 450kg	270kg	120kg

- 2) 作業半径はブームのたわみを含んだ実際の値に基づいていますので、必ず作業半径を基準として作業を行ってください。但し、ジブの作業半径は、41.5mブームにジブを装着してジブ作業を行った値を示し、その他のブーム長さでのジブ作業は、ブーム角度だけを基準として行ってください。
- 3) ルースタシブの定格総荷重は、ブーム定格総荷重と等しく、且つ限度を4000kgとします。但し、ブームにつり具等が取り付けられる場合には、定格総荷重よりつり具等の重量のほかにブームに取り付けられているつり具等の重量も差し引いてください。
- 4) ブームの長さが規定の長さを超える場合は、規定の長さか一段上のブーム長さの、いずれか小さい定格総荷重で作業を行ってください。
- 5) ジブを装着したままでブームの作業を行う場合は、定格総荷重よりつり具等の重量のほかに2600kgを差し引いてください。なお、この場合ルースタシブは使用しないでください。
- 6) ジブ使用時、ジブオフセット角度が規定の角度をこえる場合には、規定の角度より一段大きいジブオフセット角度の定格総荷重で作業を行ってください。
- 7) ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意してください。

- 8) アウトリガの張出状態によって、側方及び前方域でのつり上性能は異なります。従って各々の張出状態における定格総荷重表で作業を行ってください。前アウトリガ張出が中間(5.05m)張出より短い場合での前方つり上げは、フロントジャッキ使用時でも、フロントジャッキ不使用時と同一性能になっています。
- 9) アウトリガ最大張出状態での前方つり上げ及びフロントジャッキ格納時の前方つり上げは、側方・後方つり上げより低い性能になっています。側方つりから前方つりに入る場合には、過荷重になる恐れがありますから充分注意して作業を行ってください。
- 10) 前アウトリガ張出が後アウトリガ張出より長い場合、前アウトリガ領域でのつり上げは、後アウトリガ領域と同一性能になっています。
- 11) 各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は、下表の通りです。ただし、標準以外の掛数で使用する場合は、ワイヤロープ1本当たり4000kgとしてください。

ブーム長さ	10.9m	10.9m~18.55m	18.55m~26.2m
巻掛本数	12本	7本	5本

26.2m~33.85m	33.85m~41.5m	ジブ/ルースタ
4本	4本	1本

- 12) 自由降下は原則としてフックのみを降下する時に使用しますが、やむをえずつり荷を自由降下する場合には定格総荷重の20%までを限度とし、急激なブレーキ操作は絶対にしてください。
- 13) 定格総荷重表は、風による影響を含んでいません。瞬間風速が10m/secを超える場合は、作業を中止してください。
- 14) 定格総荷重を超える作業を行った場合、および正しい使い方を行わなかった場合は、転倒または破損します。この場合本機の保証はいたしません。